

国際間の問題はますます複雑化し、多くの人々の必要にからむ問題はますます深刻化しつつある今日の世界に面と向って国際奉仕をなさんとするとき、ロータリアンは誰しも何ら意義ある貢献をなし得ないことに絶望を感じるのではないのでしょうか。つまり、ロータリアンは自国に対する愛国心を超越し……お互いに同意できる共通の場を探し求め……各国の法律を擁護し……そして全人類の生活がよりよくなるように尽力する、という法外な挑戦に面しているのです。

果して、彼（ロータリアン）はその挑戦に応じ得るのでしょうか。19世紀の米国の哲学者、ヘンリー・デビット・ソローは「罪悪の小枝をたたき折ろうとするもの、千人に対し、その根を掘り除こうとするものは、一人しかいない。」と語っています。誰がその根を掘り除き、誰がその小枝をたたき折ろうとしているのだろうか、の質問には簡単に答えることはできません。

ロータリーにおける国際奉仕の方針は一個人個人の努力が大切である、という信念から生れたものであり、他の人々へのロータリアンの影響力を生かし、調等のすべから暴力を拒絶する、人道にかなった国政を敷き得る状態をつくり出すことに尽力することにあります。この大目的のために、我々ロータリアンは、皆、小さなつとめの中に存在する偉大な原則に従うことができるのであり、かつ、そうすることによって我々は、いかに我々個人個人の努力が微々たるもののように見えても、同じ目標達成を目指す他の人々の努力と影響力とが相 けて、世界の平和と安定、人類の進歩と調和をはかることで妨止する問題の根源を掘り除くことに役立つのだ、という自覚をもつことができるほどあります。

◎新入会員御紹介

おおしま とら じ ろ う
大 嶋 寅 二 郎



推 薦 者
(大井安麿会員)

- 1、職業分類 セメント製造
- 2、勤務先及職名 日本セメント（株）上磯工場 取締役工場長
- 3、勤務先住所 上磯郡上磯町字谷好町151
- 4、自宅住所 函館市松陰町3の18 TEL 51-1532
- 5、生年月日 大正9年3月26日
- 6、最終学歴 京都大学工学部工業学科
- 7、ご 夫 人 大嶋絹子・大正13年2月1日生
- 8、ご 家 族 長女 裕子・昭和24年4月25日生
母 博子・明治36年5月7日生
- 9、ご 結 婚 昭和19年6月1日 10、趣味 読書・ゴルフ

◎理事会審議事項

- 1、新入会員推薦について審議されました。

◎出席報告

	会員数	出席人数	欠席人数	他クラブ出席人数	出席率(%)
48. 5. 9	53名	41名	12名		
48. 5. 2	52名	35名	17名	15名	96.15%
在函クラブ	(4/24) 函館東R.C. 98.89%	(4/26) 函館R.C. 95.80%	(4/27) 函館五稜郭R.C. 100%		

★第447回例会欠席者

青柳、飯田、岩塚、下郡山、俣野、布目、小笠原、成沢、山内(文)、吉井、北条、石橋
(12名敬称略)

次回例会日 5月23日

プログラム「夜間例会」です。

The Weekly Report of Hakodate North R.C.

事務所
函館市大手町5-10
日 魯 ビ ル 3 階
☎.(0138) 23-3870



例会場 函館市大手町 5-10
国際ホテル TEL (0138) 23-8751
例会日 毎週水曜日 12:30-13:30

1973. 5. 23

第449回例会

1972~1973 第45号

Let's take a new look もう一度見直そう

(Roy D. Hickman R.I. 会長指針)



(深瀬鴻一郎会員)

本日のプログラム

「七飯R.C.との親睦夜間合同例会」

第448回例会記録

- ◎司 会 市川 芳夫会長
- ◎ゲ ス ト (株)函館現像所々長 佐藤 清一氏
- ◎ビ ジ タ ー 函 館R.C. 池田 佑吉君 他6名
函 館 東R.C. 前田 信雄君 他1名
函館(五)R.C. 高草 礼介君 他3名
- ◎斉 唱 我等の生業

◎会長報告

- 1、スイス・ローザンヌに於けるロータリー世界大会参加の俣野会員より便りが来ておりますので回覧致します。

2、先般来、幹事及び親睦活動委員会より御案内の通り、次週例会は七飯R.C.との親睦夜間合同例会でありますので、多数御出席下さる様に、場所は函館ロイヤルホテル・7F・午後6時30分より。

●親睦活動委員会 沢村委員

★ニコニコボックス報告

深瀬会員～第448回例会・会報カットが非常に特徴をとらえ良く出来たと云うことにおこたえて。

●卓話「カラー写真の話」KK函館現像所々長 佐藤 清一氏

写真、すなわちphotogrのphyと云う言葉は2つのギリシャ語「光」(pros)と「猫」(grapho)を組み合わせで出来たもので、欧米各国共通の言葉でして、英米はもちろん、独・仏・伊等まで多少の綴り方は異ってもみなほとんど同一であります。日本でphotographyを「写真」と呼んだのは言葉そのものを翻訳したのではなく、事実を意識したものです。

言葉そのものを日本語にすれば「光画」とか「光筆画」とか言うのが最も適当と思われます。現実に写真店で「光画堂」と名付けている店も道内にもございます。

日本で「写真」という名前を誰れがつけたか名付親は不明です。一説によりますと、我国に写真術が渡来せぬ以前から「写真」という言葉があったようです。何か物体の形を写生することを「写真する」といっていたそうです。

●●写真術の誕生●●

現在の写真術の誕生は1839年(天保10年)1月7日で、今から134年前にあたります。その生みの親はフランスのルイ・ジック・マンダゲールという人です。この日にダゲールはフランスの議会で写真術を報告したわけですが、その時にダゲールの発明した写真法は、ダゲレオ・タイプ法と呼ばれ、資材として銀板を使用するところから日本では銀板写真法と呼ばれております。写真の日本渡来は、ダゲール発表の2年後1841年(天保12年)オランダ人がダゲレオタイプ写真機を我国へ初めて携帯したのです。そして、このオランダ人からダゲレオタイプ写真機の譲渡を受け、かつ初めてその撮影法の伝授を受けたのが長崎の学者一上野俊之丞という人で、この人が銀板写真法で島津第28代島津斉(ナリアキラ)公を撮影したのが日本における第一号の写真であるといわれています。この第一号写真を撮影した日が天保12年6月1日でしたので、昭和26年に「写真の日」が制定され、その日を「6月1日」と決めたのはこれからとられたものです。

(天保年間には陽暦の制度はありませんから、陰暦の6月1日です)

●●カラー写真について●●

一般に白黒写真を写すためにフィルムを買うときは「SSを下れ」「SSSが欲しい」で簡単にことが決ります。ところが、カラーフィルムを買うときにはそうはまいりません。その種類が沢山あるからです。ちょっと分類しましても……

- 1、内式(内型)か外式(外型)か
- 2、ネガカラーかリバーサルポジか
- 3、デライトタイプ・タングステンタイプ・ユニバーサルタイプ・タイプA・Bなどタイプの相違な定があります。

どうしてこのように多いかと申しますと、ひとりにいえばモノクロームフィルム(白黒)は光の量にだけ関係しますが、カラーフィルムは量のほかに光の質(色)にも関係するからです。これを簡単にご説明しますと：

1、内式か外式かは、カプラーと呼ばれる発色色素がフィルムの中に含まれるものか、(内式)又は現像液の中に含まれるものか(外式)で決ります。内式はカプラーがフィルムの中に含まれるため、発色現像は1回で済み、外式は3色の発色をさせるため、現像は3回行わなくてはなりません。

現在アマチュア用として販売されている Nega Reversal (ネガ・リバーサル)

は殆んど内式です。フジのシングル8RT200(ヤミ夜のガラス……)も内式現像ですがRT50は外式です。コダクロムⅡも同様。

2、ネガかりバーサルかは：

①ネガはプリントを作る目的で、露光した銀を直接画像形成に用いる。従って色案画像は被写体の補色にあられます。被写体がB→Y(イエロー)G→M(マゼンタ)R→C(シアン)の反対色になってます。

②リバーサルは、撮影したフィルムをそのまま透明ポジとして見る目的で、反転現像を行なうから画像形成には未感光銀が使われます。色案画像は、被写体と同一の色にあられます。

3、フィルムタイプ：

カラーフィルムに色々のタイプがあるのは、撮影の際に光源の光色にそれぞれマッチさせるためです。

①デライトタイプ(5200°K～5500°K)

昼光で照明された被写体に対して最も正しく色再現されるように、フィルムのカラーバランスを合せたものです。一般には、屋外に於ける太陽光での撮影ですので、このタイプが最もよい発色を示します。現在市販されている内外のアマ用ネガ及びリバーサルは殆んどこのタイプです。このデライトタイプフィルムで、タングステン照明の下で撮影しますとみんな赤味の強い写真になってしまいます。

②タングステンタイプ(3200°K～3400°K)

タングステンライトの色温度3200～3400°K附近の光源で撮影した場合に最も良好な発色をするよう設計されております。これは、光源の種類で更に2種類のタイプに分けられております。

- ・タイプA 3400°K フジ8RT200 コダクロムⅡ プロフェッショナルA
- ・タイプB 3200°K フジタイプL Iクタクロム(タイプB) IクタカラープロタイプL

タングステンタイプで、太陽光下で撮影しますと、まっ青なものになってしまいます。

③ユニバーサルタイプ(4000°K～4500°K)

特定の光源でなく、デライトでもタングステンライトでも大きくカラーバランスがくずれる事もなく、正しい色に直せる様になっているタイプです。昔のフジ・さくらNo.50はこのタイプ。

●カラーフィルム・ペーパーの構造●

人間の色感覚は3つの色B、G、Rの三原色の混合比率で、全ての色を再現できます。カラー写真をこの原理に基づき、フィルムも印画紙も三つの色光に別々に感じる乳剤が層を分けて塗布されております。

【フィルム】 カラーフィルムは無色透明のフィルムベースの上に11尺の乳剤層や分離層を重ねて塗布したものです。その厚さは約20ミクロン(20/1000ミリ)です。髪の毛1本分もないでしょう。感光性物質にはハロゲン化銀が使用しておりますが、被写体からの光を三原色(B、G、R)に分けて感光させるために三つの層よりなり、それぞれに感光した光の色の補色画像(Y、M、C)をつくるしくみになっております。

【カラーペーパー】 ペーパーは、フィルムに比べて乳剤の感度が低いため、塗布順序もカラーフィルムの場合のように規制されることなく、メーカー独自の判断で、自由に交えることが可能です。

従来、カラーペーパーは支持体として良質の写真原紙にバライタ層を塗布したバライタ紙を使用しておりました。ところが最近、ペーパーの処理が高温高速化するにしたがって、水洗時間を短縮することが要望され、写真原紙の両面をプラスチック状の物質で防水加工したものを支持体として使用するようになってきております。現に当社でも4月27日からフジWPペーパーに切替えたところです。カラーペーパーは、アルカリ性の処理液、酸性の処理液により交互に処理されるために、その間の水洗処理は非常に重要な工程となっております。

ラボの作業工程、

私どもの現像を例にカラーが出来るまでの工程を述べてみたいと思います。ラボは亀田市の赤川通りでございます。(現像所のことをラボラトリー又はフォトフィニッシャー)赤川を選んだ第一の理由は水質が非常に良いことです。初めは七飯方面も考慮致しましたが、集配と社員の通勤上の問題がございましたので、函館の水源である赤川へ建設したわけです。

水に関しては水道水は消毒のために塩素が混入されており、その量も時によって異なりますので、カラー写真処理上からは好ましくありません。次にゴミ・ホコリ・振動をきらいますので、本通りより約50メートル引込んだところに建てております。

作業工程は、日々のラボにより多少の差はございますが、ラボの作業は集配から始まります。道南全域から集配持込みによって受けたフィルム現像或はプリント等の注文は次に件数チェックと仕分けが行なわれます。仕分けは、フジ・さくら・現像・プリント・8mm・リバーサム等に分けられます。8mmは集配時のサービスで、これを系列メーカー現像所へ送ります。現場へ回されたフィルムは、自動現像機2台で現像されます。

現像の管理は、大切でして現像所としても最大の注意を払っております。現像を正確に行なうためには種々の点に管理が行き届かなければならないのは当然ですが、すべてメーカー指定通り行なわれます。現像液温にしても、白黒の場合と違った厳密さでプラス・マイナス 0.2~0.5℃という厳密さが守られます。各使用液の疲労度やRH比重測定と毎回お客様のフィルム現像、EP画紙現像の時に一緒に現像するテストピースを濃度計で、ガンマ、カブリ等を測定して科学的管理を行なっています。現像を終わったフィルムは検査され、異常がなければプリント作業へ回されます。

プリント作業では、現像から回されたネガフィルムについてプリント時にコントロールすべき条件をチェックするモニターによる「ネガ読」作業が1駒1駒行なわれます。この「ネガ読」(タイミングと申します)をするモニターマンは経験と熟練を必要とし、10年経験でも10パーセント以上のロスを出します。モニターによってプリント時に補正すべき条件(タイミング)を出されたネガ、はオートプリンターにまわされ、オペレーターによって焼付されます。

オートプリンターは方式により、加色法と減色法に分けられ、さらにサイズによって機種を選択を行ないます。1台が約500万円~1,000万円、ラボには現在8台稼働しております。来年には無人化されたプリンターも導入予定であります。(オートプリンターには82.5mm巾・89mm巾・127mm巾で夫々70m巻のロールペーパーを使用します。

印画紙類は+10℃以下の保冷庫に保管され、使用前の4時間前に常温に出されます。又前述のテストピース類はフリーザーに冷蔵され、温度・経時変化による変質を防止致します。現像の終了したものは、この限りではありません)

オートプリンターで焼付されたペーパーは、次に印画紙自動現像機にまわされます。この機械は、プロセサーと呼ばれ、プロセサーで現像処理されたロールペーパーは、オートカッターにかけられ裁断されます。このカッターは、お客様一人分を切り終りますと自動的にストップします。次に検品が行なわれ合格のものはプリント袋につめられ、NEAC1240コンピューターで納品書を作成し、発送されて終了します。以上

お知らせ!

- 函館五稜郭R.C.
5月25日の例会は移動例会として会場を専売公社函館工場に変更します。
(開会時間 ビジター料は従来通り)
- 亀田R.C.
5月28日の例会は、クラブアッサンブリーをねるため。
5月29日、午後7時(於:空港ビル)に変更。

●●社長の健康室●●

人間が本当にリラックスするにはひとりになるのが一ばんです。げんに脳卒中の発生場所をしらべてみると応接間と会議室が断然多いのですから、他人と用談することが相当のストレスになることが察せられます。孤独が一番!

ところが現代の経営者は一日中他人に会うのが仕事で、夕食の夕食だって必ず誰かといっしょです。とてもひとりになれません。のりものにのれば横にきまってカバン持ちの秘書か専務がだれかがひかえています。社長のプライバシーはトイレの中だけ。まさか淋病やみみたいにしょつ中トイレの中へ逃げこむわけには参らないでしょう。のんびりとLPのレコードでもかけてトムジョーンズやミレイユ・アチユの歌声に聞き惚れる

自分がパーコレーターを石油ランプにかけて香り高きモカを入れ、必ずかに芳香の行方を追うなどという閑寂の時刻は社長には恵まれません。大学のプロフェッサーなどあまり研究や外書よみに疲れると、不在の札をかけて室内のソファーにごろりと横になって20~30分くらいひるねをする人が多いのですが、社長室にはそういう施設がありません。それに秘書などがいつも社長を見守っていて本当のひとりしてくれません。

独りになるう

夕食などもおでん屋の片隅でポツンと 酒でも味わうような食事が理想的なものですから、とうていそんなエレガントな食生活はむりで、取引先の重役などのおかしくないジョークに高笑いしながら酒をすすめる。もちろん社長自身も盃を傾けるとしても、社用酒で酔っ払ってしまうようではお接待になりません。

このごろの社長さんは一週間の夕食で、わが家の奥様のお手づくりをゆっくりと味わうのはせいぜい日曜の夕くらい。それもゴルフへ遠出するとことか、はなくなるという風で、くつろいだ食卓はほとんど無いそうで、これではいつリラックスして人生の重荷を下すのか全くおいわい限りです。

人の目を気にしないで、大の字になったり大きなオナラの一つも発砲したい気持ちになるでしょうが、社長室は千客万来、まるで浅草の仲店みたい。とうてい胃や血圧が正常を保つような条件がありません。わたしはなるべく旅行のときは個室の寝台をとり、何時間かをポツンと孤独をたのしむようにし、絶対に飛行機などにのらないようにします。孤独の時間さえないようなくらは極貧者だと申したいのです。

(医事評論家 石垣純二)近代中小企業5月号ヨリ

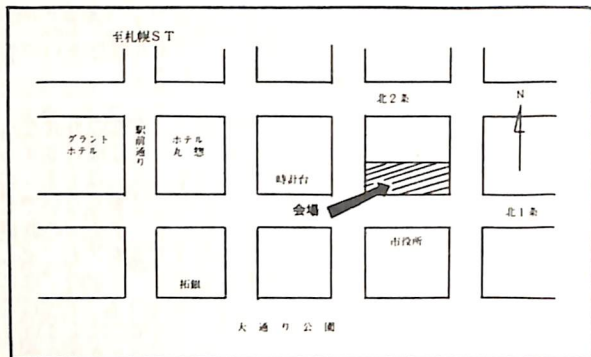
★1973~1974年度

国際ロータリー第351地区 地区協議会開催の御案内★

- 日程~6月2日(土) 登録受付13時~13時55分(会長幹事予定者のみ)
6月3日(日) 登録受付 8時30~9時25分、開会セレモニー16時30分
- 10分科会 出席義務者は1クラブ10名、下記の会員ほ方々です。
- クラブ会長部門一駒井会員 クラブ幹事部門一吉井会員
クラブ奉仕部門一青柳会員 職業奉仕部門一市川会員
社会奉仕部門一高杉会員 国際奉仕部門一深瀬会員
ロータリー財団一俣野会員 会報編集部門一西巻会員
会員増強部門一杉本会員 青少年部門一森(秀)会員

●会場~札幌経済センター

札幌市中央区北1条西2丁目 TEL 231-1122



●出席報告

	会員数	出席人数	欠席人数	他クラブ出席人数	出席率(%)
48.5.16	53名	34名	19名		
48.5.9	53名	41名	12名	10名	96.23%
在函クラブ	(5/3) 祝日休会	(5/1) 函館東R.C.	98.91%	(5/4) 函館五稜郭R.C.	100%
月平均(4月)	函館R.C. 95.75%	函館東R.C. 98.62%	函館(五)R.C. 100%	函館北R.C. 95.19%	

次回例会日 5月30日

プログラム 会員卓話「最近の石油事情」 山内 文雄 会員

(ヨシイ)

The Weekly Report of Hakodate North R.C.

事務所

函館市大手町5-10

日魯ビル3階

☎.(0138) 23-3870



例会場 函館市大手町5-10

国際ホテル TEL (0138) 23-8751

例会日 毎週水曜日 12:30-13:30

1973. 5. 30

1972~1973 第46号

第450回例会

Let's take a new look もう一度見直そう

(Roy D. Hickman R.I. 会長指針)



(深瀬鴻一郎会員)

本日のプログラム

「映 画」

NHK 提供

第449回例会記録

◎司会 市川 芳夫会長

◎斉唱 奉仕の理想

◎ビジター 函館東R.C. 光銭 吉郎君

◎会長報告

①本日の例会は七飯R.C.との合同例会で御座居ますが、皆さんようこそおいで下さいました。昨年の合同例会の時には、私共多くさんおしかけてまして有難度うございました、お礼申し上げます。今回は当クラブの主催であります、ほとんど全会員の出席と聞き大変嬉しく存じます。七飯R.C.誕生して満3年、本当に早いもので、我々のクラブの3年生のころは、私は幹事をしてまして、ふりかえるといろんなことが想い出されます。クラブ会報(第153回)を拝見し、本当に立派ですね。私達のころはこんな立派なものではなかったです。この機会に更に親睦を深め、そして一緒にロータリ